

2005 年度春季合宿アラスカ遠征訓練 “五川一湖航行”合宿

50代 塚本麻衣子

隊員構成：CL片岡 賢佑(49代 / 2回生) 木下 祐作(49代 / 2回生)

塚本 麻衣子(50代 / 1回生)

合宿地：滋賀県 琵琶湖、岐阜県 木曾川 長良川 飛騨川、
新潟県 千曲・信濃川

合宿期間：2006年2月8日～3月16日

この合宿は2006年2月8日から3月16日にかけて琵琶湖(大津～長浜間、55km)、木曾川(美濃太田～鶴沼、15km)、長良川(郡上八幡～河口堰、94km)、飛騨川(下呂～焼石、16km)、千曲・信濃川(上田～新潟港、260km)で行われた、総距離440kmに及ぶアラスカ遠征のプレ合宿である。遠征に利用する予定のインフレーターカヤック2艇、3名で航行した。国内ではまれに見る長期合宿となった。

この合宿ではアラスカを見据え、クマ対策の実施、買出しの制限などを行った。

クマ対策とはテントを居住

テントと倉庫テントの二つに分け、さらに炊事場を設け、その3カ所をそれぞれ10mずつ離し、居住テントには食糧、及び匂いのあるものは一切入れないというものであった。

そのためどんな天候のときでも外での食事を余儀なくされた。

また、今合宿では寒中航行に慣れることも目的の1つであった。2～3月の新

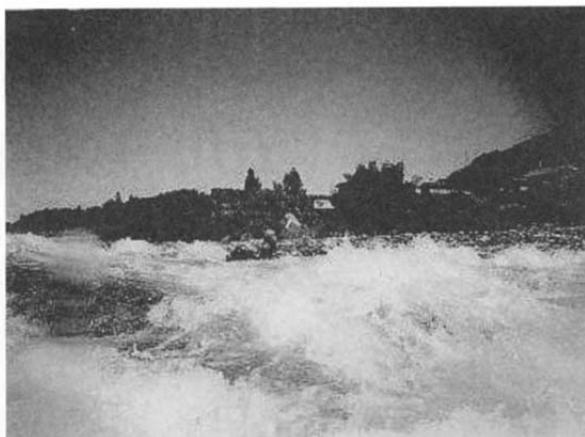


潟での外での食事は想像を上回る厳しさであった。

航行中も 1~2m の雪の壁に囲まれ、川に雪の塊が浮かんでいるような状況で、フィリップ&リカバリーは自然と素早くなっていた。1~2m の雪の上をポーテージしたこともあった。

長良川では増水と多量積載によりスタート直後から荷物のバランスが悪く 2 回連続の沈。その後も幾度か沈を経験した。美並ヤナの瀬では、木下、塚本が約 50m 流され、低体温症に陥った。飛騨川上流の中山七里は岩のたくさん絡んだ滝のような瀬を下り操船技術の向上が図れた。信濃川では、雪解けの増水時のみに姿を現す激流の中、雪が解けずに浮かぶ冷水に放り込まれた。水温は他のどこ川にも比較にならず冷たく、感覚としては痛かった。

また、アラスカでは容易に補給がで



きないことを想定して、休養日以外での買出しを禁止した。これがなかなか厳しく、試食は OK などという意味のわからないルールができた程である。そして待ちに待った休養日は飲むわ、食うわの豪遊三昧で、ATM に走ることも多々あった。

低体温症や霜焼けに悩まされながら、ある意味アラスカ遠征よりも厳しい合宿であった。約 40 日間の航行生活により、寒中航行に慣れ、2 m を超える積雪中でのテント生活により、長期合

宿ならではのモチベーションの変化なども経験し、遠征実現へ向けた大きな経験となった。

(50 代現役)

